慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については巻頭に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1回20日発行

慶應義塾大学病院
●診療時間 I・午前9時～午前11時
●電話 (3353)1211（大代表）
信濃町駅前・各種診療

深まる交流と連携で
関連病院とクラスター構想

慶應義塾大学医学部・病院と関連病院との今後の連携体制について、平成18年新専修医制度がスタートする中で、その具体的取り組みが模索されている。これについて今号では、医学部より池田康夫医学部長、三四会より比企能樹三四会会長、関連病院より水野嘉夫関連病院会副会長から、それぞれの立ち位置、視点についてコメントをいただいた。教育改革、経営問題などさまざまな変革の波の中で、クラスター構想を背景とした新たなネットワークの構築は、慶應義塾の発展のみならず、日本の医療改革に直結するものであろう。いずれからも共通して見えてることは、より深い相互理解とコミュニケーションの実現、各々のニーズを理解した上での相互方向の交流、連携の強化が求められているということであろう。大学に所属していない医師の臨床・研究で活躍できる仕組み作りやポストの確保、関連病院の研究のあり方など、今後取り組むべき具体的ポイントもあげられている。2面には現在の関連病院会のリストを掲載した。医学部・病院と関連病院との在り方について、三四会会員各位にご検討いただければと思う。

教育・研修・研究への一致協力した取り組みに向けて

医学部長　池田　康夫

拠点病院を中心とする関連病院とのネットワーク構想は医学部・病院の組織制度改革の中での大きな柱と認識しており、これまでに関連病院会、三四会を始めとして、内外の会で説明を行ってきた。また、従来教室が個別に関連施設とつながりを持ってきたが、大学として対応すべき施設と、従来の関係を中心とする施設とに役割分担をする必要があると考えている。

昨年末、新専修建設に向けてのコンセプト形成から尊厳修医制度が始まり、今後各領域での専門究、教育の三部門に分けて若手医師からの意見を聞くために医学部将来構想ワークショップを開催し、今年にスタートしてからは、診療クラスターワークショップを開催し、新たな大学のシステム作りを模索している。中でも新たなクラスター作りは、今までに関わってきた経緯の研究部門では、我が国の科学技術の発展等に寄与する可能性の高い独創的な研究又は開発を行った者を対象として授賞を行っている。

今回の岡野教授の受賞は、「幹細胞システムに基づく中枢神経系の発生・再生研究」である。中枢神経系の機能を図り、もって我が国の科学技術の向上に寄与することを目的として、科学技術賞の表彰を行っている。岡野教授（62歳）が、文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞し、授賞式が去る四月十八日に虎ノ門パストラルで行われた。文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術の向上に寄与することを目的として、毎年、優れた研究者に対して行っている。

本学生理学の岡野栄之教授（生理学62回）が、文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞し、授与する可能性の高い独創的な研究又は開発を行った者を対象として授賞を行っている。

岡野教授の受賞は、幹細胞システムに基づく中枢神経系の発生・再生研究である。中枢神経系の機能を図り、もって我が国の科学技術の向上に寄与することを目的として、毎年、優れた研究者に対して行っている。

本学生理学の岡野栄之教授（62回生）が、文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞し、授与する可能性の高い独創的な研究又は開発を行った者を対象として授賞を行っている。

岡野教授の受賞は、幹細胞システムに基づく中枢神経系の発生・再生研究である。中枢神経系の機能を図り、もって我が国の科学技術の向上に寄与することを目的として、毎年、優れた研究者に対して行っている。

岡野栄之教授（生理学62回）
文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞

この中枢神経系の発生・再生研究は、神経幹細胞の存在を示した。また、神経幹細胞の増殖・分化を調節するNotch遺伝子群の発見、神経幹細胞の増殖・分化を調節するRNA結合蛋白質Musashi（ムサシ）遺伝子